

令和3年度 社会福祉法人 進和学園 事業報告

令和3年度は、基本理念「本人中心」のもとに、“一人には一人のひかり”の精神をもって、七つの輪（ご本人、ご家族、地域社会、ボランティア、行政、職員、法人役員）の連携のもと、障がい部門の利用者ご本人と、放課後等デイサービス並びに保育園、学童保育の子どもたちの支援充実のために、法人職員が各事業活動に一丸となり取り組みました。

法人役員等の体制については、理事、評議員、評議員選任・解任委員の任期満了に伴う改選が令和3年度に当たることから、6月20日より新体制でスタートしました。

世界的な脅威である新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響は、国内では令和元年度末頃より始まり令和3年度も依然と続き、次年度に至っている状況です。嘱託医の北山先生のご配慮によりコロナワクチンの確保とともに施設内の集団接種が、令和3年度内に6月から翌年2月にかけて希望するご本人、職員に対して3回実施出来たことは感染予防、重症化を防ぐ上で大変効果がありました。そのおかげで8月中旬変異したデルタ株により「はばたき進和」でクラスターが発生しましたが、陽性になった方は高齢にもかかわらず軽症で済みました。年明け以降はオミクロン株で、各施設、保育園等で子どもたちを中心に小規模に陽性者、濃厚接触者が発生したため各行政関係機関と調整協議のもと臨時休業、休園で対応しました。そのため令和3年度も社会的な活動、イベントが自粛される中、進和学園のご本人の活動や生産活動も制限せざるを得ない状況もありましたが、進和学園として感染予防対策マニュアルを随時更新し、感染予防対策の徹底に努めると共に、その状況に合わせて出来る限りの活動を継続しました。

令和3年度は、新規事業として、地域の放課後児童健全育成事業「旭学童保育会第1・第2」の運営を保護者会の要望に応じて運営を引継ぎ、平塚市より受託しました。また神奈川県より障害者支援施設等意思決定支援モデル事業を進和あさひホームが受託し、進和学園の今までの取組を踏まえてモデル事業の諸課題の取組を報告し、さらに次年度へ展開することとなりました。

障がい部門は、利用者ご本人の生活支援・就労支援・相談支援を推進しました。特に生活支援は、年々進む重度高齢化の波を受けての健康管理と安全確保に努めるとともに、コロナ下の一時的制限もありましたが地域生活を支えるセーフティネットとしての拠点機能の対応に努めました。一方で就労支援は、年々厳しくなる経済状況の中で工賃確保という諸課題に取り組みました。相談支援については生活・就労両面にわたる支援などご本人の多様化するニーズと課題に向き合い支援充実を努めました。権利擁護、虐待防止については、人権・虐待防止委員会を中心に各施設で引き続き取り組みました。

保育園部門は「いずみ」「富士見」「しらゆり」の3園とつどいの広場「どれみ」が連携して、地域に根ざした子育て支援を推進しました。

学童保育部門は「勝原学童保育会第1・第2」「旭学童保育会第1・第2」の4単位となり、専任の管理職を配置し総合的な運営に努めました。増える利用児童と手狭な活動スペースの中で、コロナ下の受入についての配慮も要しました。平塚市、学校等と連携し、法人内施設の応援で乗り切りました。

今後の施設再整備計画については、安全対策をはじめ総合的な生活体系の課題がありますので、障がい福祉計画と整合する計画の検討について関係機関と協議調整を始めました。福祉・介護職員処遇改善臨時特例交付金については、年度後半の2月、3月からの賃金改善が条件となり、障がい・保育・学童の各部門で制度化されましたので対応したところであり、今後も既存制度と合わせて改善に努めてまいります。公益的な取組みについては、コロナ下の中で、出来る限り継続に努めました。

以上、地域のニーズに応える社会福祉法人としての役割を認識して、「共に生きる」社会の実現に向けて取り組みました。

I ≪重点課題 法人運営≫

1 新型コロナウイルス感染症対策について

令和3年度も緊急事態宣言・まん延防止等重点措置が発令され、感染防止対策を引き続き徹底してまいりました。神奈川県下の福祉施設では多数の感染者が出ましたが、進和学園でも散発的に陽性者、濃厚接触による自宅待機者がでました。はばたき進和において8月、クラスターが発生しましたが、ワクチン接種後であったため、大きな感染拡大には至りませんでした。月日の経過とともにコロナに対する対応も刻々と変化しておりますので、感染予防対策及び陽性者が判明した場合の対応については、行政専門機関等に報告、相談し、円滑な対応に努めました。

ワクチン接種につきましては、嘱託医の北山先生のご尽力により、行政の協力のもと6,7月に第1回目714名、7,8月に第2回目714名、2月に第3回目664名、と早期に接種できました。

2 役員・評議員会の改選

令和3年6月は理事・評議員・評議員選任・解任委員の任期満了に伴い改選となりました。新型コロナウイルス対策として神奈川県のまん延防止等重点措置が6月1日～20日まで延期となり開催予定の定時評議員会がその期間に入ってしまうことから対面会議は控え6月20日書面決議となりました。役員を選任について、理事10名は全員再任、監事2名は、内1名再任、1名は新任として選任されました。評議員の改選については評議員選任・解任委員会の推薦をいただいた評議員11名全員が再任されました。続けて同日理事会も書面決議し理事全員の同意により出縄守英理事長が再任されました。

3 新規事業の放課後児童健全育成事業「旭学童保育会」について

「旭学童保育会」の運営を保護者会の要望と選考を経て引継ぎ、令和3年度より平塚市から受託しました。令和2年度の「勝原学童保育会」に続いての受託になりました。2年続いてコロナ下のスタートとなりましたが、進和学園としては専任職員、療育アドバイザーを配置して学童保育部門の強化を図り、障がい部門からの応援職員、本部事務局機能等で総合的に学童保育会の運営をバックアップしました。子どもたちの陶芸体験等のプログラムへの参加等を通して、福祉へのふれあいを進めてきました。

4 福祉人材の確保・育成について

新卒採用の推進は採用人事サポートチームを中心とした体制で、コロナ対策に対応したオンライン面接等を導入し積極的に取り組みました。現場見学の機会が延期され内定承諾までに期間を要する学生が多くいましたが、粘り強く対応し令和3年度は障がい部門13名、保育園部門5名を採用しました。中途採用は日本知的障害者福祉協会の紹介サイト(リクオプ)、ハローワーク、インディード、職員の紹介等により令和3年度中に20名を採用しました(内3名は令和4年4月1日付採用)。育成については、職員養成委員会、人材育成・人事考課制度委員会、人権委員会等が中心になり、階層的な研修体制、人事考課を推進しました。コロナの影響もあり、オンラインを活用した研修、会議を推進しました。

5 公益的な取組について

地域のニーズを事業に反映し、先駆的、創造的事業に取組める体制を、コロナ下の出来る範囲で推進しました。公益的な取組については、在宅障がい者に対する食事提供(実費)・生活支援、平塚市民の花なでしこの苗栽培と無料配布(平塚市役所等)、湘南平あじさい管理、陶芸体験教室、環境緑化・環境教育、地域防災への協力、まちの活性化イベントへの協力等に取り組みました。

II ≪重点目標 施設整備≫

1 やましろホームの住環境の整備について

ご家族の高齢化により、今後家族のかたちが変わっていきます。そのための準備として、通所のご本人の生活基盤を家庭からグループホームへ移し、夜間の生活はグループホームで、日中の活動はやましろホームでという事業所間で連携して、ご本人の生活を支える必要性が高まってくると思われれます。今年度は、通所のご本人が、ご両親の健康状態の急変に伴いグループホームの生活を体

験しました。しかし、ご本人とご家族の意向から生活の安定のためには入所施設の機能が必要であるとなり、短期入所を利用しながら生活を支えることとなりました。このような経験を通して、ご本人が家庭以外の生活の場を選択できるような様々な意思決定支援につながる取組みを進めてまいります。ご本人のニーズは多様であることから、そのニーズに応えられるような福祉サービスの構築に努めてまいります。

2 グループホームの拡充について

グループホームを利用者されているご本人の支援度の高まり、ご家族の高齢化などで入所のニーズは高まるものの、国の方針として入所定員は増えることはありません。よってグループホームの休日・夜間体制の強化と障がいの重い人でも利用できる体制が必要となり改善しています。法人で取得した万田地区一戸建て住宅を活用して、体験型グループホームが実施できるよう検討に入りました。

III <<重点目標 施設運営>>

1 保育園部門の運営について

コロナ禍において、例年実施している「運動会」や「生活発表会」などの行事は、来園される保護者の人数を制限し縮小して行いました。また、保育所から各ご家庭への情報発信に関しては紙での配布を極力減らしメールで発信し、丁寧な情報発信に努めました。姉妹園との職員間の人事交流に関しては、市内保育所のコロナ感染状況も多く、また各園がコロナにより臨時休園したこともあり中々実施することが難しい状況でした。

2 人材育成の推進について

人材育成・人事考課制度委員会を中心に行う階層別研修はリモートで実施し、リモート上でグループワークなども経験しました。各施設でのスーパーバイザー方式の人材育成・定着は、中間報告会はバイザーのみでリモートで行いました。年度末の報告会はバイザーとバイジーが各々の日程でリモートで実施しました。キャリアアップ研修、国家資格取得奨励を、職員養成委員会を中心に行いました。職員の資質向上に資する外部を含めた研修(オンラインも含む)参加を、職員個々の希望もくみ取って推進しました。

3 職員研修について

コロナ禍の状況を踏まえ時期を見ながら研修活動をおこないました。法人内交流研修と職員ボウリング大会は代わりとなるものの模索も含めて検討しましたが、良い案が出ず結果中止としました。意思決定支援をテーマとした講演会は11月にルネッサンス食堂にて32名が参加しました。また施設現場見学会(17名参加)は時期を見計らい、コースも変更して実施しました。理事長講話会はオンラインで10月、2月にそれぞれ2回ずつ、計4回で27名が受講しました。いろいろな制約のある中ではありましたが、検討、工夫、感染対策をしながら進めました。「全国知的障害福祉関係職員研究大会」「全国知的障害関係施設長等会議」はじめ外部研修の多くがオンラインでの開催となりましたが、積極的に参加しました。

4 人事考課制度の確立について

職務遂行・貢献度に応じた自己評価・施設評価・法人評価を給与面・昇給等に反映している等制度として定着してきました。現場の職員の意見を聴いたり、人材育成・人事考課制度委員会で少しずつ進和学園として、より適正な評価に近づく内容を検討しました。

5 運営システムやITの活用等について

長引くコロナ禍において、法人施設間の会議・打合せはZoom、Skypeを使用したオンライン化が定着しました。オンライン化による移動時間の削減や配布資料のペーパーレス化は、環境保護の観点からも有意義な手段でありました。約2年間のオンライン経験は個々のスキルアップにもつながりコロナ終息後にも役立つと思われます。またコロナ禍だからこそホームページの更新・チェックに注力し、情報公開・発信を継続的に推進しました。情報漏洩にも一定の注意を払いつつ、情報管理に取り組みました。

6 生活体系の検討・推進について

- ① ビーライトしんわ及びしんわブライトの放課後等デイサービス事業・・・放課後支援部門（ビーライト単位2：定員10名）と発達障がい児グループ活動部門（ビーライト単位1：定員10名、ブライト：定員10名）の2種類のサービスを提供しました。利用実績は、放課後支援部門で2,038件（稼働率82.8%）、発達障がい児グループ活動部門ではビーライト単位1は1,740件（稼働率71.3%）、ブライトは1,810件（稼働率74.5%）でした。

平成24年度の児童福祉法改正以降、平塚市内の放課後等デイサービス事業所が9ヵ所から34ヵ所へと増加の一途を辿りサービス利用が分散化されてきた事業環境の変化を受け、ビーライト単位2で登録者数の減少に学校休業日は家庭で過ごす利用形式を採る児童の増加が加わったことによる稼働率の低下が見られました。7～9月の第5波、1月～3月の第6波といった新型コロナウイルスの感染拡大期には、直接的、間接的に感染症にかかわる事由での欠席が増え、部門全体で稼働率の低下を余儀なくされました。

ビーライト単位2で1月末に児童1名が新型コロナウイルスに感染したことにより、配置職員のPCR検査、事業所の消毒、受け入れ体制の整備等の諸対応のため3日間閉所しました。保健所をはじめとする行政機関との相談協議を踏まえて感染拡大防止策を徹底し、感染を広げることなく終息に至りました。

放課後支援部門は、下校時刻に学校へ迎えに行き、施設で過ごした後に自宅に送っており、ご本人が安心して過ごせる場を提供すると同時に働く保護者の就労支援にもなっています。

発達障がい児グループ活動部門は、心理社会的に多様で複雑とならざるをえない発達障がいへの専門性の高い支援ニーズに応えるべく、グループならではの集団力動を活用したさまざまな運動課題やコミュニケーション課題を取り入れたグループ療育支援を提供しました。ご本人たち一人ひとりの発達特性への理解を深め、発達のバランスを整えるきっかけづくりとしての総合的な発達支援に取り組みました。新型コロナウイルス感染拡大防止のための衛生対策を徹底すると共に、グループ活動課題についてもご本人たち同士の近接を極力減らし接触を回避する様式の提供を継続しました。

そのほか、平塚市子ども教育相談センターとの連携の下、平塚市立小中学校の巡回相談を実施しました。また、学校の先生方からの直接相談にも数多く対応し、普通級に在籍する発達障がい児のための学習環境の整備や対応支援方法の検討に協力しました。

- ② 保健活動は特に新型コロナウイルス感染症の防止対策として衛生管理の徹底に注力しました。保健委員会と法人、施設長会の協調のもと、利用者ご本人、ご家族および職員に対して注意喚起文を発出しました。

入所施設に限らず、通所系の事業所においても、ご本人、ご家族の高齢化が進んでおり、通院等の協力も行っております。総合的な保健協力体制、支援技術の向上に努めました。利用者ご本人の通院に関する業務や内服薬の管理、毎月の血圧・体重の計測、日常の衛生への呼びかけを実施。また年2回の嘱託医による健康診断をはじめ、各種検査（胸部レントゲン、血液検査、尿検査、検便等）の他、口腔健診も実施しました。人間ドック（79名受診）の結果をふまえ、健康の維持・増進、疾病の早期発見・早期治療を図るため個別的な具体策を計画・実施しました。インフルエンザ対策としてはワクチンの接種（利用者と職員の全体で643名）を実施し、肺炎球菌ワクチンも対象者に接種しました。また職員の人間ドックについては健康助成規定により実施（133名受診）しました。

- ③ 防火管理者会では各事業所の本人防災委員と共同で活動しました。毎年、平塚市災害対策課、地域消防団の協力のもと、総合防災訓練をおこなっています。今年度も新型コロナウイルス感染症予防のため縮小しましたが、11月11日に万田・高根地区で、11月18日に土屋・吉沢地区で行いました。その他にも毎月1回、各事業所で地震・火災のみならず、近年増加している自然災害を想定した非常災害訓練も行いました。

AED・心肺蘇生法の技術の向上を目指し、講師の資格を保有している職員が講師となり講習会も行いました。また、新型コロナウイルス感染症の対策については、法人・施設長会や、その他の委員会と連携して行いました。

- ④ 地域生活支援の拠点機能として…法人全体で、短期入所枠は計 26 床（やましろ 4、あさひ 4、はばたき 10、万田 8 単独型）あり、在宅で障がいのある方の地域生活を支える機能、グループホームのバックアップ機能、緊急ケースの対応など拠点施設としての機能を果たしています。令和 3 年度は新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、やむを得ない事情で利用される方以外、8 月 6 日～9 月 30 日、1 月 14 日～3 月 27 日、まん延防止等重点措置に即して短期入所の受け入れを法人全体で控えました。

令和 3 年度の実績は、万田ホームは短期入所 2,159 件、日中一時支援 813 件。やましろホームは短期入所 1,396 件、日中一時支援 273 件。あさひホームは短期入所 1,125 件、日中一時支援 141 件。はばたき進和は短期入所 2,348 件、日中一時支援 85 件を実施しました。

7 意思決定支援

神奈川県で創設した障害者支援施設等意思決定支援モデルの簡易想定モデルを進和あさひホームが受託し、現状分析や課題抽出に取り組んできました。意思決定支援についてのアンケートの実施や進和あさひホームの利用者の中から 1 名を選定し、普及想定モデルで行う「意思決定支援に係る手掛かりシート（ヒアリングシート）」を作成しました。

利用者の意思決定支援を進めていく上では相談支援事業所の関与が必須であることが理解できました。しかし、あさひホームの利用者の中には相談支援事業所と契約を行っていない方が数名おり、各市町村及び相談支援事業所と相談し、全利用者が契約を結ぶことができました。

8 相談支援事業について

サンシティひらつかにおいて、平塚市委託事業である障害者一般相談 2,577 件や障害サービス利用計画 738 件（成人計画 328 件、モニタリング 398 件、児童計画 6 件、モニタリング 6 件）、障害認定区分調査 112 件を実施。

就労支援事業では、新規就労支援や定着支援を実施し、登録者は 764 名で相談支援件数は 6,685 件でした。相談支援対象者の数は年々増加。特に精神障がい者、発達障がい者の増加が著しく相談支援件数の 44%を占めています。そのため、相談件数が前年に比べ 6%増となりました。他にも地域の自立支援協議会就労支援部会を開催したり、関係機関との連携を強化することで湘南西部圏域の障がい者就労支援の中心的役割を果たしています。障害者一般相談、就労支援の両部門ともニーズの高まりと多様性が深まっており、事業の推進に努力しました。

9 作業体系について

- ① ホンダ車部品組立作業は、本田技研工業(株)様のご支援のもと発注を頂いて 48 年目になります。おかげ様で評価として 44 か月「ミスゼロ」を更新中です。しかしながら令和 3 年度も半導体不足並びにコロナ禍に伴う減産調整と埼玉製作所狭山工場の閉鎖による影響を受け、加工賃収入は 7,927 万円となりました。前年度比－785 万円で率にして－9%となりました。引き続き(株)研進との協同で受注確保に努めるとともに、品質保証の取り組みとして ISO9001 の推進・更新を行い「ミスゼロ」を目指します。
- ② 自主生産事業の作業収入はコロナ禍により販売やイベントも少なく厳しい状況となりましたが売り上げ目標の 1 億 7,000 万円を達成し、1 億 8,441 万円となりました。前年度比+659 万円で率にして+3.7%と挽回しています。
- 作業収入全体での収入は 2 億 6,368 万円となり前年度比+286 万円でした。
- ③ サンメッセは Web 等により平塚商工会議所の逸品研究会等へ参加、市内商工関係者と連携のもと製品開発、販路拡大に努めました。コロナの影響で病院や老人ホームへの販売や納品を中断、各種販売イベントの開催は少ない状況の中、6 月に開催された「パンのフェス 2021 初夏」の出店に当選し参加しました。フェスでは全国から出店したパン屋さんの新商品のアワード（表彰）がおこなわれサンメッセの湘南ブルーベリーぱんが見事「ブロンズ賞」を受賞しました。また、2 月から湘南ベルマーレとのコラボ商品を開発しベルマーレのパン屋さんとして公式ブースにて販売を始め好評を得ています。「湘南みかんぱん」の平塚市ふるさと納税返礼ギフトは 11 件の注文でした。平成 30 年 4 月より湘南ひらつか名産品としても認定されています。第 62 回全国

推奨観光審査会において推奨品に認定されました。今後も生産事業の販路拡大と衛生管理の徹底に努めてまいります。

- ④ ルネッサンスの農産品加工事業は、9年目を迎えました。令和3年2月19日に認証を取得したHACCP(食品の製造過程管理基準)に基づく衛生管理に努めてきました。コロナ禍で通信販売が好調となり楽天の売上は1,105万円となりました。また受託加工も増えてきました。「トマトジュース」の平塚市ふるさと納税返礼ギフトは16件の注文でした。湘南ひらつか名産品としても認定され、このたび第62回全国推奨観光審査会において推奨品に認定されました。ノウフクアワード2021ではチャレンジ賞を受賞しました。さらなる品質向上を目指すとともに、6次産業化ネットワークの活動を継続し、事業の推進に努めました。
- ⑤ いのちの森づくりは(株)研進と協同で、学校の森づくりをはじめ、湘南国際村、NEXCO高尾・小仏植樹祭、新東名秦野丹沢の植樹等に参加しました。コロナの感染予防対策のもと植樹祭も徐々に開催され苗木の出荷数は20,258本となりました。平成21年度よりスタートした森づくりプロジェクトは累計出荷数324,494本となりました。さらなる開拓を推進し、他法人施設との連携(どんぐりブラザーズ)に努めてまいります。
- ⑥ 施設外就労は継続して、地元しまむらストア様のバックヤード作業と環境整備等の作業を請負いました。令和3年度も各店舗にて進和学園自主製品を販売する「進和学園フェア」を定期的実施させていただき連携を深めました。(株)ゴバイミドリ様よりの都市型緑化プランターの里山ユニットの作業請負に取り組みました。
- ⑦ 在宅就業支援制度の在宅就業障害者特例調整金の活用は、しまむらストア様、(株)研進を窓口として本田技研工業(株)様が対象となりました。制度の活用と周知を図り、受注拡大に努めました。
- ⑧ ルネッサンスは湘南西地区及び平塚市の共同受注窓口として、地域の福祉事業所とのネットワークの構築、受注作業のマッチング機能を推進してまいりました。受注量、連携事業所も増えてきており、更なる協力体制に努めました。現在水道メーター分解、どんぐり関係、公園清掃の中で13事業所と連携をしています。
- ⑨ 「ともしびショップ湘南平」は、平成28年度より「サンメッセしんわ」と一体的に運営し、1階の喫茶部門は、ホットケーキの店「湘南リトルツリー」(平成30年3月25日内装改修リニューアルオープン)として進和学園内で生産するパン類やトマトジュースなどを食材として活用するメニューを揃えました。販売部門は自主生産品やお土産グッズ等を常設販売しました。令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大により8月上旬から約2か月間緊急事態宣言が発出、1月下旬から約1か月間まん延防止等重点措置が発出され、感染予防のため臨時休業しました。年間を通して感染予防の対策を講じて営業をおこないました。2階は活動スペースエリアとして幅広く活用できますが、令和3年度は感染予防の対策としてサンメッセご本人の作業や家族ボランティアの工房は自粛しました。
- ⑩ 平塚市役所の1階東側多目的スペースにおける福祉ショップ「ありがとう」は令和3年7月で丸7年を迎えました。運営は平塚市内福祉関係団体がひとつになり組織した「ひらつか福祉ショップ運営協議会」が主体となり、進和学園はその事務局を担当し事業を推進しました。令和3年度も多くのお客様にご来店いただき、また平塚市からの優先調達や市内企業による継続的なご発注もあり売上向上につながりました。また生産事業推進会議パフォーマンス部会のFM湘南ナパサ78.3MHzのラジオ番組(ナパサクラブ制作)「バリア!フリフリ天国」(毎週月曜20:00~20:30)に利用者ご本人が中心に参画し、福祉現場からの情報発信、福祉啓発に努めました。

10 本人活動

しんわ本人自治会連合会では、「自分で選んで自分で決める」「本人中心」を徹底してまいりました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響は大きく、毎月対面で実施していた「しんわ本人自治会連合会定例役員会」はリモートで、6月5日(土)に平塚市西部福祉会館で予定していた「しんわ本人自治会連合会決算総会」は書面での議決となりました。

しんわ本人自治会連合会が中心となり年末募金活動を実施しました。募金のお届けは新型コロナ

ウイルスの影響で日程を調整し、令和2年度分を令和3年12月24日に平塚市長並びに各団体にしんわ本人自治会連合会役員代表がお届けしました。令和3年度分は令和4年度で日程調整します。さらに、「しんわ文化スポーツ振興会」との協力体制のもと、実施してきました余暇の同好会活動や各種行事は、コロナ禍において限られた活動となってしまったため、昨年度同様、施設内の活動で余暇の充実に努めました。

1.1 しんわさわやか相談室

例年あじさいまつりの期間中に法人さわやか相談室を開催し、各事業所からの報告を基に法人相談員の方々との意見交換が行われましたが、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、残念ながら2年続けて令和3年度も中止としました。各施設においては日頃より多様な相談を受け、真摯な対応に努めました。令和3年度は新型コロナウイルスに係る相談が比較的多く見られました。

1.2 主な全体行事

- ①あじさいまつり、湘南ひらつか七夕まつり、さわやか文化スポーツ大会、こころのかたちアート展については、令和3年度もコロナ感染は収まらず、昨年度同様、残念ながら中止としました。
- ②昨年度に引き続き本田技研工業様とのあじさいまつりやクリスマス会での交流は自粛させていただきましたが、昨年同様860名の学園関係者にHONDAのTシャツやクリスマスプレゼントをご寄贈くださいました。しかしながら都市対抗野球の応援につきましてはコロナ感染が一定程度落ち着いたタイミングであったため、感染対策を講じつつ例年より小規模(約20名)で静かに応援してきました。

③天神まつり

地元自治会及び地域の皆さまにお集りいただき毎年天神まつりを計画していましたが、令和3年度もコロナウイルス感染防止のため、地域を交えてのイベントは中止しました。1/25の初天神の日に、規模を縮小して、万田ホームの利用者、職員にておこないました。

1.3 月報しんわ

進和学園の活動報告や情報発信の手段として、「月報しんわ」を昭和50年より発行しています。月報編集委員会が中心となって、読みやすく且つ内容の充実に努めました。令和3年度もコロナの影響による活動自粛を受けて、3か月ごとに1,359部を発行しました。関係者はじめ地域、ボランティア社会ご支援者、行政に配布し、ホームページでも公開し情報開示に努めました。

IV<<職員の処遇について>>

一人一役を合言葉に、一人ひとりが学園運営に参加することを主眼に各種事業を展開しました。

1 職員互助会について

職員の福利厚生を推進するため、法人全職員参加のもとに互助会を設立して25年。有効に運用され、職員の安心感は深いものがあります。令和3年度は職員健康共済規定出産休業援助事業による出産給付金支給は2名(給付302,742円)、一般疾病による療養給付金支給は8名10件(給付額618,524円)、傷害保険の利用は21名22件(保険金458,000円)でした。しんわ家族会様には新型コロナウイルスの感染拡大により昨年に続き会費の徴収を停止している中、継続しての助成に深く感謝いたします。

2 労務について

職員がより一層働きやすくなる環境を構築するため、労務委員会と協議調整して風通しの良い職場づくりに努めました。令和3年度よりタイムカードの導入が開始され、労務委員会が中心となってマニュアルを作成し、各事業所での運用方法の改善に取り組んでおります。また、令和4年度より育児・介護休業の一部改正となるため、労務委員内で育児休業規定改定案作成チームを立ち上げて内容を吟味して改定案を作成、職員の介護や子育て支援の更なる推進に取り組みました。

3 永年勤続表彰感謝について

令和3年度永年勤続者は、勤続5年(13名)、10年(17名)、15年(15名)、20年(11名)、25年(8名)、30年(6名)、35年(3名)、計73名でした。新型コロナウイルスの感染拡大により、例年6月に実施していた全員での感謝式は延期し、障害部門は12月8日(水)、9日(木)、保育園部門は

12月22日(水)に分散して行い、感謝金を贈り表彰感謝を実施しました。
 3年度末の職員数408名のうち、継続職員251名、嘱託職員23名、準職員134名となります。
 (常勤職員率67.15%。内訳は男性88.1%、女性54.33%)
 男性職員は154名、平均勤続年数14.39年、平均年齢43.58歳です。
 女性職員は254名、平均勤続年数9.43年、平均年齢44.78歳です。

V《理事会・評議員会の開催状況について》

開催日時	出席者	審議・承認事項
理事会 令和3年6月3日(木)	理事7名 監事1名	第1議案 令和2年度事業報告について 第2議案 令和2年度決算報告について 社会福祉充実残額について 監事監査報告について 第3議案 評議員選任・解任委員会細則の一部改定について 第4議案 令和3年度定時評議員会の開催について 報告事項 理事長の職務執行状況報告 しんわルネッサンス「食品加工増産のための機器導入」事業の報告について 新型コロナウイルス感染症に係るワクチン接種について
評議員会 令和3年6月20日(日)	書面評決	第1議案 令和2年度事業報告について 第2議案 令和2年度決算報告について 社会福祉充実残額について 監事監査報告について 第3議案 定款変更について 第4議案 役員を選任について
理事会 令和3年6月20日(日)	書面評決	第1議案 理事長の選定について
理事会 令和3年11月25日(木) 10:00~12:00 しんわブライト	理事9名 監事2名	第1議案 令和3年度第1次資金収支補正予算について 第2議案 富士見保育園ブロック塀改修工事について 第3議案 規程の一部改定について 1 給与規程(最低賃金変更に係る改定) 2 経理規程(学童保育部門変更に係る改定) 第4議案 しらゆり保育園の隣接地取得の経過について 第5議案 しんわやえくぼの安全対策の提案について 報告事項 理事長の職務執行状況報告 新型コロナウイルス感染症の対応について ともしびショップ湘南平とプチ・ブーケの運営について

<p>理事会 令和 4 年 3 月 24 日(木) 10:00~12:00 しんわブライト</p>	<p>理事 8 名 監事 2 名</p>	<p>第 1 議案 令和 3 年度第 2 次資金収支補正予算について 第 2 議案 県指導監査結果報告（保育園部門）に係る改善報告について 第 3 議案 整備計画について 1 しらゆり保育園隣接地取得の進捗状況について 2 しんわやえくぼの安全対策に係る総合整備計画について 第 4 議案 令和 4 年度事業計画(案)について 1 法人事業計画・日程について 2 利用者状況(市町村別一覧)について 3 運営組織図並びに施設長・職員配置表について 4 職員構成表並びに採用職員について 5 総合支援サービス計画図について 6 生産事業推進計画について (事業計画図・自主製品販売先一覧) 第 5 議案 令和 4 年度当初予算(案)について 第 6 議案 規則・規程等の一部改定・制定について 1 就業規則 ハラスメント防止規程 2 経理規程 3 給与規程 4 役員報酬規程 5 情報管理規程 6 運営規程 7 虐待防止対応規程 8 安全運転管理規程 第 7 議案 次回評議員会の日程及び場所、議題について 報告事項 理事長の職務執行状況報告について 役員賠償責任保険について 新型コロナウイルス感染症に係る状況について 富士見保育園ブロック塀改修工事について しんわやえくぼの急傾斜地崩壊対策工事について</p>
---	--------------------------	--